

活動の原点に立ち返って

リージョナルステート研究会は、設立されて6年目になります。活動の中心を分科会において、運営を当事者に任せて、現場に入って具体的に実行をする、としてきました。今年は、その分科会を一つ増やし4分科会で進めることとしました。

- ・自然科学教育分科会
- ・観光分科会
- ・循環技術システム研究分科会
- ・地域主権分科会（新規）

地域主権分科会は、地方において進められている地方分権、権限委譲、人口減少、地域経済の脆弱さ、市町村合併など動向を踏まえつつ、これからの北海道づくりやまちづくりについて、北海道そして市町村はどうすべきなのか、社会資本整備はどのようにあるべきなのか、膨大な事務の委譲・移譲によって技術管理は大丈夫なのかなど、北海道の将来像を模索しつつ、我々技術士が提案・提言できることを考えていく主旨です。座長は須藤 靖彦さん、幹事長が荒 精一さんです。是非、入会をお願いします。

今年はリージョナルステート研究会全体としても、当研究会の主旨の徹底、交流の拡大、レベルアップのために次のことを進めていきたいと考えています。

- ・見学会、旅行などの全体行事を総会以外にも開催する。
- ・当研究会メンバーは、自分の所属分科会以外の他の分科会にも自由に出席できるように案内し交流を深める。
- ・当研究会メンバーの忘年会、新年会など情報交換会を開催する。

今年度もよろしく願いいたします。

(文責：研究会会長 市村 一志)

自然科学教育分科会

平成16年度の活動内容のまとめ及び平成17年度の活動予定についてご報告いたします。

1. 平成16年度の教育サポート等の活動

平成16年度は次の教育サポートを行いました。

- ・札幌市内小・中学校・高校での教室授業及び野外実習。及び道教育大の土曜講座での教室授業。
- ・寿都町「自然体験サバイバルキャンプ」での野外・教室授業（地域産業研究会との合同活動）。

その他、弁護士会等のNPOとの懇談会、特別分科会として合宿などを実施しました。

2. 平成17年度の活動予定について

2005年（平成17年）4月15日に本年度の第1回目となる定例会議を実施し、平成17年度は新たに以下のような方向性を持って活動を行うこととしました。

- ・昨年までの活動場所が学校での授業形式が主になっていることから、地域での活動の面も充実させていくように努めていく。
- ・地域での活動の充実のため、本年度は清田区を重点地域として自治体に働きかけ、区内に在住の技術士を主体にサポートへの参加をお願いしていく。また、来年度以降は重点地域として別な区を選んで活動の場を広げる。
- ・北広島市の「いくぞ北広昆虫隊」での活動の実施及び厚別区子ども会などとの連携の模索を図る。
- ・パンフレットの内容の充実を図り、一般へのアピール度を高める。

また、昨年度までと同様に、教育大及び札幌市内の小学校での活動ならびに寿都町での活動も行う予定としており、新たな分科会行事として、春・秋の「遠足会」を設けることとしました。

(文責：分科会副幹事 鳥谷部 晃綱)

観光分科会

1. 観光は地域づくりの総仕上げ

『観光は地域づくりの総仕上げ』と言われるように、観光振興には総合的・横断的施策が不可欠です。そのような観点からすると、この4月に2つの注目すべきトピックがありました。

第一には、北海道庁内に、従来まで、部課に散らばっていた観光に関連するセクションをひとつにまとめた「観光のくにづくり推進室」が組織されたこと。

第二には、国・道等の行政機関と経済団体等が連携した「シーニックバイウェイ北海道推進協議会」が組織され、3つのシーニックバイウェイルートが指定されたことです。

両者とも、横断的な推進体制づくりを特徴としており、今後の活動が期待されます。

2. 観光分科会の活動

私たちの観光分科会は現在22名が参加し、勉強会を中心とした活動を重ねています。観光という観点から考えると、私たち技術士は専門的な技術を背景に、人と人、組織と組織、技術と技術を繋ぐ役割を期待されているのではないかと考えます。そのためには、それぞれが持つ専門的技術の他に、他分野の技術や知識の吸収、また積極的に「地域に出て」地域住民や旅行者のコミュニケーションを図り、積極的に観光に対するニーズを把握し、それを技術に反映していくと行った姿勢が必要であると考え、以下のような活動の基本方針と活動の目的を設定し、今後も勉強会や現地調査を中心に活動を続けていく予定です。

また会員も募集中ですので、興味のある方は気軽にご連絡ください。

■活動の基本方針

- ① 社会資本のエンドユーザー(地域住民、旅行者)とのコミュニケーション
- ② 地域との協働を通じた社会貢献
- ③ 技術士の専門性を活かした新しい北海道観光の実験

■活動の目的 北海道観光への提言活動

- ① 技術にこだわった提言
- ② 業務などを通じた経験に基づく提言
- ③ 地域の抱える問題課題に対応した提言
- ④ 日頃感じたり思ったりしている事柄への提言

メールアドレス miyatake@readjust.co.jp

(文責：分科会座長 宮武 清志)

循環技術システム研究分科会

1. 最近の活動

今年に入ってからのは活動は、会員の持っている広範囲な話題提供を中心に展開していこうとの趣旨で行っています。現在まで下記の勉強会を開催しました。

○札幌市のごみ事情と清掃施設について

リサイクル団地に代表される札幌市の取組みを、広範囲な施設と共に紹介していただきました。

○空知支庁生ゴミバイオガス化の実例

中空知地域3市の最近稼働開始した生ゴミバイオガス化施設のシステム、運転状況等を比較検討しました。

○地中熱利用ヒートポンプの現状と施工例

最近自然エネルギーとしての利用が増大している地中熱利用ヒートポンプについて、設計例・施工例を検討しました。

これらのように環境・循環・エネルギー等、様々なキーワードのもとに毎回、それぞれの専門分野から貴重な提言をいただいています。また、質疑応答と異なる分野からの貴重な意見・具申が見られます。

2. 今後の活動予定

今後も様々なテーマでお互いの研鑽を深めていく予定です。現在下記のようなテーマが候補に上っていますので、興味がある方はおいで下さい。歓迎致します。

○別海バイオガスプラント報告(北海道における共同利用型バイオガスプラントの課題と展望)

○京極バイオガス発電・揚水発電所見学会

○新エネルギー利用の導入支援(海外の事例等紹介)

○サハリン赴任報告

○ホタテ貝殻の有効利用

(文責：分科会事務局 外 朝彦)



定例会後の情報交換の様子

地域主権分科会

リージョナルステート研究会では、本年度、新分科会を立ち上げ、新たな活動を開始いたします。

●地域主権分科会設立趣旨

北海道は、市町村合併が進まないまま道州制導入による地方分権社会のモデルとして新たな地方自治へと刷新しようとしています。

しかしながら、少子高齢化に加えて大幅な人口減少、地域経済の脆弱さ、今後も続く市町村合併など、特に北海道の場合には他の都府県に比べて大きな

課題・問題となって現れてきます。

そこで、私たちは、これからの北海道そして市町村はどうすべきなのか、社会資本整備はどのようにあるべきなのか、膨大な事務の委譲・移譲によって技術管理は大丈夫なのかなど、北海道の将来像を様々な面から模索し、我々技術士が提案・提言・行動できることを考え発信していきたいと思っています。

●参加者募集

設立趣旨に賛同いただける方、興味のある方、一言いっておきたい方など広く参加者を募集いたします。(参加者の推薦と了承を得て技術士センター所属以外の方の参加も今後は進めていきたいと考えています。)

●連絡先

参加申込みは、下記の E-mail 若しくは FAX にて御願います。(外勤が多いので電話は殆ど用を成しませんのであしからずご了解ください。)

リージョナル研究会地域主権分科会

幹事 荒 精一 (総監・建設)

E-mail : coara@muh.biglobe.ne.jp

FAX : 011-611-0219 (和光技研株式会社企画計画室)

TEL : 011-611-0231 ()

座長 須藤 靖彦 (建設)

E-mail : sudoh.yasuhiko@kyowa-concrete.co.jp

(文責：分科会幹事 荒 精一)